

2018 9.14~9.17

東日本大震災 ボランティアツアー

in 福島



日程	時間	プログラム
1 日目 9/14	7:40 8:00	熊谷キャンパス集合・出発 熊谷駅集合・出発
	13:00~16:00 16:00~	車内で昼食 南相馬市小高区ボランティア活動 小学校で清掃活動 各民泊場所へ
2 日目 9/15	午前 13:00 14:00~ 18:00 19:00~20:00	民泊先で郷土料理作り等体験活動 民泊先お迎え 富岡町視察 夕食 NPO 法人講演 入浴
3 日目 9/16	8:00 9:00~15:00 18:00~19:00 19:00~20:30	朝食 広野町主催イベント『広野スタイル』でボランティア 夕食 入浴 (楡葉町天神岬温泉)
4 日目 9/17	8:00 9:00~12:00 12:00~13:00 13:00~14:30 15:00 21:00	朝食 NPO 法人の方の講話、ボランティア活動 昼食 振り返り 広野町出発 途中道の駅四倉港 熊谷駅着→熊谷キャンパス



in南相馬市小高区



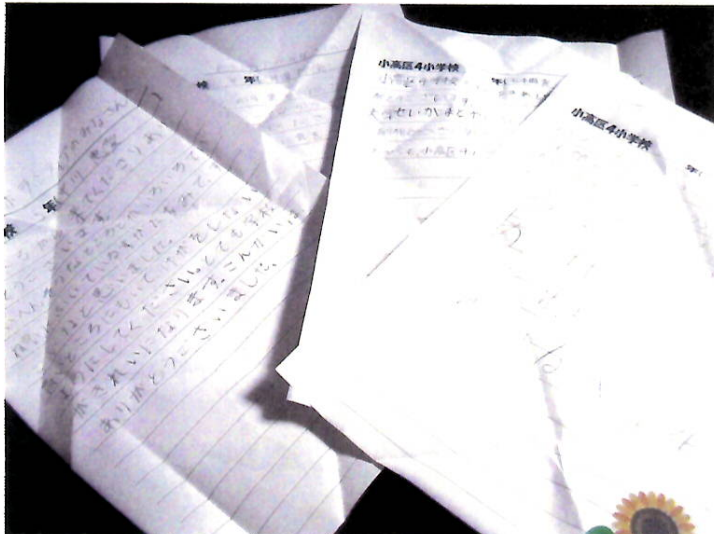
←小高区4小学校

元々4校合わせ2717人
だったが2017年4月に
再開し、今現在68人の
児童が在学中

↑
校章もちゃんと4つあり!!



校舎中の窓を
みんなが手分けして
キレイに拭きました



小学校ら、6年生4名から
お礼のお手紙を
いただきました!!



in南相馬市小高区



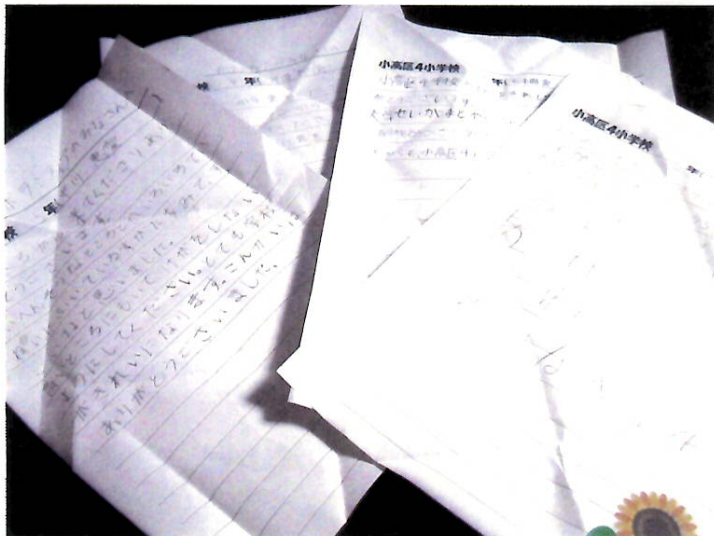
←小高区4小学校

元々4校合わせ2717人
だったが2017年4月に
再開し、今現在68人の
児童が在学中

↑
校章もちゃんと4つあり!!



校舎中の窓を
みんなが手分けして
キレイに拭きました



小学校ら、6年生4名から
お礼のお手紙を
いただきました!!



民泊 in もりりん

♪ 郷土料理作り ♪



しや巻 調理中



後揚げるだけ



おはぎ 調理中



完成 ✨ ✨

みんなで美味しく
いただきました



夕食



手作りご飯を 振る舞ってもらいました

おひさまの
特製おにぎり!



朝食

感想

なかなか機会のないおはぎ作りや、初めての紫蘇巻き作りをした。餅米や小豆、紫蘇などほとんどが自家製だと聞いて、自産自消のりに驚いた。また震災時、高波が来た訳ではないが近所で床下浸水したと聞いて、海から何キロも離れている所でも被害があったことを知ることができた。

着いた時が雨で良くて、不便だった荷物もすぐに晴れた。食事は全部おひさまの手作りでお腹いっぱいだった。また、震災当時のことばかり思い出した。緑の稲穂は、おひさまの紫蘇巻きを手作りした。紫蘇巻きは全部おひさまの手作りだった。大変な民泊生活 楽しかった。

民泊先の森林(もりりん)では、民泊の人が作った美味しい夕食と朝ごはんを食べて、郷土料理作りをしてしそ巻きとおはぎを作ったりと、とても充実した1日だった。最初は知らない人同士で緊張していたが、時間が経つにつれ仲良くなって新しい仲間関係が芽生えてとても嬉しかった。時間が空いているときふと見たテレビ番組「東北ここから」。そのテレビ番組で、在宅被災者の現状、7年半経た今でも苦しんでいる被災者の姿を見て、「もう7年経たない、まだ7年なんだ」と感じた。

民泊先でおはぎとしそ巻を作る体験をさせてもらった。小豆があまり好きではなかったが、美味しく食べられた。初めての体験だったのでとてもよい経験ができた。温かい家庭で本当に良かったです。

民泊先で震災時のお話を聞いた。津波が来た時に逃げたこと、近くの道路が線路が700メートル流れて来たこと。津波の威力がとてつもないものか身にしみた。おひさまの民泊先にお泊りした12月12日、福島第一原発の爆発の音も聞いたこと、しそ巻き。爆発音の聞こえ方、この辺りの原発の威力も聞いておひさま、これからの日本の原発問題をいざこざに考え直すきっかけを作りたいと思った。

in 富岡町



← 津波に流されてしまった
パトカー。乗車していた2名の
警察官は、津波に襲われて
しまった。最終まで誘導した
2名を讃え、双葉警察署の
横に保管されている。

幸運にも爆発を逃れた →
F2 (福島第一原子力発電所) の
見える丘。ここには遠藤さんの
勤務していた観陽亭があったが、
津波により今はない。



第一原子力発電所の爆発による
放射線の影響で避難を余儀なく
された地域。7年たった今なお
帰還困難区域から解除されない。

津波の被害を受けた浪江町



津波に1階部分が流されてしまった
 請戸小学校。避難途中で
 バンパーに乗せられて、生徒、教員
 全員が無事に助かったという。 ↓

富岡町を案内してくれた
 遠藤さんが営んでいる観陽亭の
 お弁当!!



お弁当が続く生活を
 体感するのはずだったが、
 おどおいかった～!
 並の名前を入れないで頂いたのも
 ありました♡



感想

今日は福島今の現状を
 肌で感じた。今まで思っていた
 福島現状とは多く異なり、
 色々な現地での思いを知る
 こと成りてよかった。このこと
 をいろんな人に伝えていくた
 らなと思う。

7年半経った今避難先での生活
 が定着してきてしまっている家庭が
 多いために、富岡に戻るのが
 難しくなっているという現実を知った。
 確かに当時7歳未満だった子ども
 たちは避難先での生活の方が
 長い。そのような状況下でどのよう
 に日々が戻ってくるのか、疑問を抱いた。

富岡町視察では、遠藤さんの震災当時の
 話を生で聞き、震災の恐さを改めて感
 じた。バスの中ではまたフレコンバックが山
 積みになっていたり、帰還困難区域が道路沿
 ぎにある姿を見て、7年半経った今でも復興
 が進んでなく原発の恐ろしさを改めて
 感じた。公園で聞いた津波パトロールカーの
 話、最後の遠藤さんの「いつ何が起ころうか
 分からない。だから日々を大切に過ごして
 ほしい」というお言葉。その言葉を聞き、自分
 これから心の中に何を持て、日々をどうする
 か考え、大切に過ごしていきたい。

今回は途中参加で、常磐線を利用して、
 バスからでは見ることが出来
 ない広野や富岡の景色を見ることが
 出来ました。

遠藤さんとの視察では、去年や3月
 に行ったときとは違う所もあり、変わっ
 ていない所もあって復興しているよう
 でしていないように感じました。

テレビで見たりネットで見た原子的被災地
 の現状と初対面で見ると。
 津波の1階部分が流れてしまった小学校、流され
 た家の土台、復興中の漁港、フレコンバックの
 山並み、和の土間と風通る風景だった。
 津波の威力、被害がどれほど大きかったかを
 実感できた。
 ・普段の仕事が非常時に使われるような
 備え、そこから仕事を見直していか
 ないと。

富岡町で印象に残ったのは、避難困難
 区域の境目に刺さる柱。透明の
 シリカ板が、7年経たずとも割れ
 ている。人の気配が全くない。7年経たずとも
 昨日までの場所だ。本人は言葉が
 通じない。
 私たちが訪れた富岡に、この状況場所が
 ことを79%の人に知ってもらう。私
 たちのために支援は足を運んだ、秋の
 収穫祭、いいか、いいか、いいか、いいか、
 感じました。

in 双葉郡 広野町

🌸 広野スタイル 🌸



老若男女の地元の方が
たくさんいらしてよかったです!!



立正大学のブースとして
ボール投げ, 工作(割りばし鉄砲, 折り紙)を
催しました!!!!



サイダー

ヨーヨー
私たちも楽しませていただきました!



スラックライン

みんな
楽しめました〜!



FMXのショーを
真近で見て
迫力がスゴかった!!



感想

「広野スタイル」という広野町のイベントのボランティアをしました。自分は、工作をしていました。出店をしている方々の和やかな雰囲気や自分の地元とはまた違っていたので楽しかったです。子どもたちが元気良く、笑顔いっぱい楽しんで遊んで行って帰ってきたのでとても嬉しかったです。

ニッ沼総合公園で開催された「広野スタイル2018」。このイベントではたくさんの催し物が出され、とてもおやかな1日だった。自分は主にアンケート係としてイベントに来たお客さんにアンケートを聞いていたが、地域の人達はとても気さくに答えてくれ、ぬくもりのあるいい町だなと感じた。立正大学で企画した催し物では、子供達がみんな笑顔で楽しんでくれ、ボランティアに来たかいがあったと感じた1日だった。子供達の笑顔がいちやこれ、次の日も頑張ろうと思えた。

1日という短い時間でも子供達と触れ合う機会が少なく、元気を身えうことが出来なかった。そこで子供達との笑顔の元気をもらうために、この1日自分の人生に大きな影響を与えてくれた場所だった。

今日は広野町のイベントに参加して沢山の笑顔に出会った。子供と触れ合ったりアクロバティックなバイクを見れたりとても充実した1日だった。少しでも広野町に貢献できればいいなと思った。もっともより良いのが出来て欲しい。

今までボランティアに参加してきて、初めてイベントに参加したため不安はあった。しかし広野町に住む人達は活気に満ちていて、不安は嘘のように消えていて、ボランティアをするために来たはずが、逆に大いに楽しませてもらった。私たちの催し物にも老若男女の方々に楽しんでいただけた。とても充実した1日になった。

立正大学でのブースを開いて、子供と触れ合う、イベントのスタッフとしてイベント担当やイベントのお手伝いをさせてもらった。いろいろな出店が出て、1000円の方の笑顔が見られたのでもったい。子供と一緒に遊ぶ機会もあって自分自身も楽しかった。FMXのショーもとても楽しかった。

震災前から考えられていたプロジェクト



人が集まって来ますように...と
願いを込めて植え始め、
5年経った今、約1万本の桜が
植えられているという

感 想
ハ 心

背丈ぐらいの草を刈ると思ってい
たら、2mぐらいあってびっくり。
草の周り半径2mを刈るよう指示
されていたけれども、桜の近くま
で行くのが一苦労だった。〇〇
この草だらけの中でも桜はカ
強く育っていた。
桜の咲く頃、お花見をしに
来たいと思った。

桜プロジェクトのボランティアを
しました。しかし、自分だけ、蜂
に刺されてしまった為ほとんど
手伝うことが出来ませんでした。
次回は、しっかり参加でき
るように頑張りたいです。

最終日は桜プロジェクトのサ
イト、草刈りを行った。この桜が
が今後の未来で震災のことを
伝えたいように一本一本
大切にしながら草を刈った。地道
な作業は大切にして大切だと
思ふ。満開になった桜を早く
見てみたい。

震災前から桜を植える活動を考
えたのは何年かたのことだ。この
この活動のお手伝いとして自分の背丈より高
い草や木のある草を虫も明に大変
だったが、お花見の草刈りをした。
刈った後は木が見えるようになった
だ。
一本本の桜が満開になったらと
お花見にお花見。
満開になるまで草刈りをしてほしい

桜プロジェクトの一環である草刈り。
背丈以上ある草があったりして大変だ
たがやりがいのあるボランティアだ。た
桜1つには植えた人々の復興への
想いが書かれているプレートが貼っており、
福島復興に向けてこれだけの人々の
熱い想いがあるのだと感動した。
草を刈り終りきれいな木々。
今度は満開に咲き誇ったこの桜を見、
福島に帰りたいと思う。

雑草刈りをして大変だったが、
スレイに付いた線通しを見て透
成感を感じた。この桜プロジェクト
を企画した人は震災の
で亡くってしまっていることを知り、
そのために桜の木子育ちの
プロジェクトが嬉しいと感じた。
今後ぜひ桜プロジェクトの参
加したい。

